

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成24年8月10日
【四半期会計期間】	第61期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第60期 第1四半期連結 累計期間	第61期 第1四半期連結 累計期間	第60期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(千円)	4,253,241	4,604,160	19,737,671
経常利益(千円)	79,670	319,348	1,525,620
四半期(当期)純利益(千円)	10,429	208,990	702,904
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	22,229	198,104	724,899
純資産額(千円)	5,536,875	6,230,111	6,239,491
総資産額(千円)	12,726,612	13,302,275	13,305,561
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	1.01	20.15	67.76
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	43.5	46.8	46.9

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループは、健康食品事業を開始するための事業会社を設立いたしました。これに伴い、当社の関係会社は子会社が1社増加いたしました。また、前連結会計年度末において清算中でありました株式会社加賀寿庵及び株式会社つきじちとせが清算終了いたしました。この結果、平成24年6月30日現在では、当社グループは当社と子会社16社により構成されることとなりました。

なお、当該健康食品事業がセグメント情報に与える影響は軽微であるため、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」において「その他」の区分に含めて記載しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における事業環境は、東日本大震災の復興需要など一部に緩やかながら回復の兆しが見られるものの、雇用情勢や所得環境の厳しさから消費者の生活防衛意識や節約志向は更に高まりを見せ、個人消費は低調に推移するなど、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、『新成長エンジン創り』をテーマに、高付加価値商品の開発、新規出店、新市場・新需要の開拓、人材の補強及び育成、コンプライアンスの一層の強化に注力し、経営基盤の強化及び収益性の向上に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、4,604百万円（前年同期比8.3%増）、営業利益は315百万円（前年同期比290.5%増）、経常利益は319百万円（前年同期比300.8%増）となりました。また、四半期純利益は、繰延税金資産の見直しによる税金費用の減少要因があったことなどにより208百万円（前年同期の四半期純利益は10百万円）となりました。

なお、解散子会社であります株式会社加賀寿庵は平成24年4月に、株式会社つきじちとせは平成24年6月にそれぞれ清算結了いたしました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、利益率の改善に注力し、プロモーション費用などの効率的な使用や道外催事などの外商部門の採算管理の徹底に努め、また、新商品の開発や通信販売の強化を推進いたしました。商品展開では、ルタオ15年目の記念スイーツ「ルーローブラン」の発売、糖酵母を使用した「北海道生クリーム食パン」を投入したキャンペーン展開を行いました。また、道内店舗では、新規出店効果や北海道の旅行需要の回復も加わり、小樽地区及び千歳空港が堅調に推移いたしました。その結果、売上高は、1,652百万円（前年同期比1.4%増）、営業利益は176百万円（前年同期比157.5%増）となりました。

寿製菓

寿製菓は、関東の代理店向けに4月に開通した新東名高速道路のサービスエリアへの新商品の投入、地元山陰地区では、古事記編纂1300年イベントと連携し、主力商品「因幡の白うさぎ」の販売強化、また、「栃の実茶」の通信販売の強化などに努めました。その結果、売上高は1,710百万円（前年同期比14.8%増）、営業利益は125百万円（前年同期比125.0%増）となりました。

販売子会社

販売子会社は、駅・空港・高速道路などの交通機関チャンネルを中心に、販売強化に努め、名古屋地区では「小倉トーストラングドシャ」、宮崎地区では、「宮崎マンゴーラングドシャ」の拡販強化、また京都地区では、新ブランド「KYOTO VENETO（ベネト）」を立ち上げました。その結果、売上高は997百万円（前年同期比6.9%増）、営業利益は51百万円（前年同期比279.0%増）となりました。

九十九島グループ

九十九島グループは、大手テーマパーク向けへの新商品の投入やモンドセレクション3年連続最高金賞W受賞のPR展開に努めました。その結果、売上高は654百万円（前年同期比4.2%増）、営業利益4百万円（前年同期は営業損失18百万円）となりました。

但馬寿

但馬寿は、前年同期の震災影響の反動増などにより堅調に推移し、売上高は231百万円（前年同期比7.8%増）、営業利益は14百万円（前年同期比840.9%増）となりました。

シュクレイ

事業の再構築を進めておりますシュクレイは、新規出店では、4月に大宮ルミネ、5月に東急百貨店渋谷店にそれぞれ「東京ミルクチーズ工場」ブランドで出店いたしました。また、催事では4月より立川ルミネ、5月より上野駅エキュートで「コートクールシュクレ」ブランドで、6月には羽田空港で新ブランド「ザ・メープルマニア」を投入し、売上高の拡大に努めました。その結果、売上高は266百万円（前年同期比72.9%増）、営業損失は12百万円（前年同期は営業損失11百万円）となりました。

その他

その他は、損害保険代理業及び健康食品事業が含まれております。売上高は1百万円（前年同期比6.8%増）となり、営業損失は健康食品事業の立上費用が発生したため、31百万円（前年同期は営業利益0百万円）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、13,302百万円となり、前連結会計年度末と比べ3百万円減少いたしました。主な要因は、受取手形及び売掛金の減少(335百万円)、現金及び預金の増加(175百万円)、商品及び製品の増加(84百万円)などによるものです。

負債は、7,072百万円となり、前連結会計年度末と比べ6百万円増加いたしました。主な要因は、返済及び1年内返済予定の長期借入金への振替えによる長期借入金の減少(353百万円)、確定納付による未払法人税等の減少(305百万円)などの減少要因があった一方、流動負債のその他の増加(416百万円)、短期借入金の増加(300百万円)、1年内返済予定の長期借入金の増加(219百万円)などの要因によります。

純資産は、6,230百万円となり、前連結会計年度末に比べ9百万円減少しました。主な要因は、その他有価証券評価差額金の減少(10百万円)によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.1ポイント減少し、46.8%となり、1株当たり純資産は600円58銭となりました。

(3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、10,885千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,400,000
計	30,400,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,373,840	10,373,840	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	10,373,840	10,373,840	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日	-	10,373,840	-	1,217,800	-	550,269

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	300	-	-
完全議決権株式(その他)(注)	普通株式 10,372,800	103,728	-
単元未満株式	普通株式 740	-	-
発行済株式総数	10,373,840	-	-
総株主の議決権	-	103,728	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が6,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数60個が含まれております。

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎 2028番地	300	-	300	0.00
計	-	300	-	300	0.00

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,522,870	2,698,222
受取手形及び売掛金	2,032,302	1,697,213
商品及び製品	516,280	600,952
仕掛品	26,898	29,893
原材料及び貯蔵品	303,324	315,445
その他	370,684	429,792
貸倒引当金	5,472	4,013
流動資産合計	5,766,886	5,767,504
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,103,529	3,053,777
機械装置及び運搬具(純額)	474,897	482,481
工具、器具及び備品(純額)	212,251	222,803
土地	2,571,639	2,571,639
リース資産(純額)	51,085	45,993
有形固定資産合計	6,413,401	6,376,693
無形固定資産	137,780	137,059
投資その他の資産		
その他	1,126,287	1,166,559
貸倒引当金	138,793	145,540
投資その他の資産合計	987,494	1,021,019
固定資産合計	7,538,675	7,534,771
資産合計	13,305,561	13,302,275
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	730,627	628,100
短期借入金	2,000,000	2,300,000
1年内返済予定の長期借入金	494,288	713,610
未払法人税等	459,260	153,467
賞与引当金	362,449	181,129
その他	800,345	1,217,220
流動負債合計	4,846,969	5,193,526
固定負債		
長期借入金	1,169,617	816,408
退職給付引当金	747,869	764,525
役員退職慰労引当金	98,042	-
その他	203,573	297,705
固定負債合計	2,219,101	1,878,638
負債合計	7,066,070	7,072,164

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	3,686,897	3,688,417
自己株式	312	326
株主資本合計	6,227,546	6,229,052
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,945	1,059
その他の包括利益累計額合計	11,945	1,059
純資産合計	6,239,491	6,230,111
負債純資産合計	13,305,561	13,302,275

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第 1 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日)
売上高	4,253,241	4,604,160
売上原価	2,199,459	2,242,209
売上総利益	2,053,782	2,361,951
販売費及び一般管理費	1,972,857	2,045,953
営業利益	80,925	315,998
営業外収益		
受取利息	80	73
受取配当金	1,225	1,373
受取地代家賃	4,945	4,533
その他	5,347	8,592
営業外収益合計	11,597	14,571
営業外費用		
支払利息	11,500	9,811
その他	1,352	1,410
営業外費用合計	12,852	11,221
経常利益	79,670	319,348
特別損失		
固定資産売却損	-	39
固定資産除却損	222	-
投資有価証券評価損	30,458	-
特別損失合計	30,680	39
税金等調整前四半期純利益	48,990	319,309
法人税等	38,561	110,319
少数株主損益調整前四半期純利益	10,429	208,990
四半期純利益	10,429	208,990

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	10,429	208,990
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	11,800	10,886
その他の包括利益合計	11,800	10,886
四半期包括利益	22,229	198,104
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	22,229	198,104

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

連結の範囲の重要な変更

前連結会計年度において連結子会社でありました株式会社加賀寿庵は平成24年4月に、株式会社つきじちとせは平成24年6月に、それぞれ清算したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。ただし、清算終了までの損益計算書は連結しております。

当第1四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社ジャバルシーを連結の範囲に含めております。

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ724千円増加しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

(役員退職慰労金制度の廃止について)

平成24年5月15日の取締役会において、役員退職慰労金制度を廃止することを決議し、平成24年6月26日開催の定時株主総会終結の時をもって廃止いたしました。本制度の廃止に伴い、在任中の取締役及び監査役に対し、それぞれ就任時から同定時株主総会終結までの在任期間に対応した役員退職慰労金を打ち切り支給することを決議しております。

なお、支給の時期は各役員の退任時とし、当第1四半期連結会計期間において、役員退職慰労引当金を全額取崩し固定負債の「その他」に含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
受取手形	4,669千円	17,376千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
減価償却費	134,648千円	132,880千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	259,340	25.00	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	207,470	20.00	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	計
売上高							
外部顧客への売上高	1,523,046	1,044,279	933,287	551,063	77,933	122,019	4,251,627
セグメント間の内部 売上高又は振替高	107,605	446,457	134	76,288	136,835	32,364	799,683
計	1,630,651	1,490,736	933,421	627,351	214,768	154,383	5,051,310
セグメント利益 (は損失)	68,558	55,589	13,608	18,657	1,586	11,159	109,525

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	1,614	4,253,241	-	4,253,241
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	799,683	799,683	-
計	1,614	5,052,924	799,683	4,253,241
セグメント利益 (は損失)	591	110,116	29,191	80,925

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業が含まれております。

- セグメント利益(は損失)の調整額 29,191千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額110,194千円、セグメント間取引消去額3,034千円、たな卸資産の調整額 797千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 141,622千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
- セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	計
売上高							
外部顧客への売上高	1,567,679	1,138,045	971,776	584,175	73,838	266,923	4,602,436
セグメント間の内部 売上高又は振替高	85,274	572,713	26,133	69,831	157,598	-	911,549
計	1,652,953	1,710,758	997,909	654,006	231,436	266,923	5,513,985
セグメント利益 (は損失)	176,550	125,049	51,578	4,118	14,922	12,371	359,846

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	1,724	4,604,160	-	4,604,160
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	911,549	911,549	-
計	1,724	5,515,709	911,549	4,604,160
セグメント利益 (は損失)	31,883	327,963	11,965	315,998

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額 11,965千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額128,670千円、セグメント間取引消去額3,316千円、たな卸資産の調整額 2,626千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 141,325千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度中において子会社の状況に変動があったことに伴い、セグメント名称を「つきじちとせ」から「シュクレイ」に、「販売子会社(11社)」から「販売子会社」にそれぞれ変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当該変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	1円01銭	20円15銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	10,429	208,990
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	10,429	208,990
普通株式の期中平均株式数(株)	10,373,582	10,373,489

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年8月6日

寿スピリッツ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 憲次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 英俊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。